

依然として足踏み状態が続く

1月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

天候が安定していたことによる影響が、業種によって明暗を分けた状況がうかがえる。また、SUBARUの自動車部品の不具合発覚による工場の操業停止の影響も機械・金属を中心に複数の業種で見受けられる。全体的な業況は、多くの業種で横ばいとなり、依然として足踏み状態が続いている。

製造業	食料品		パンは、天候に恵まれ客足順調となり前年並みを維持。菓子は、商品価格値上げにより収益維持。製麺は、原材料価格上昇を販売価格に転嫁できない状況が続く。酒造は、普通酒の大幅な売上減により売上・収益ともに悪化。食肉は、と畜頭数は前年同様となるが、枝肉カット頭数減少と燃料・原材料費高騰により収益減少。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地・輸出向け・和装織物すべてにおいて低調な引合い。伊勢崎織物は、広巾織物は好調であるが、和装織物の需要が依然として低迷している。ニットは、企業間格差がみられるが、全体としては売上・収益ともに増加。繊維製品は、好天が続いたことで防寒衣料の売上が減少し、大幅な業況悪化となる。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、好天により出荷は前年並み。生コンは、一部地域において公共工事の影響で出荷量増となるが、全体的に低調。コンクリート製品は、県北西部の広域幹線道路とGメッセ群馬関連事業の本格化により売上増。砕石は、八ッ場ダム関係で好調な吾妻地域以外は概ね不調となり、全体として収益悪化。
	機械・金属		電機関連やプラスチック金型がけん引し、全体的な業況感は若干好転している。自動車関連や鍍金は、SUBARUの自動車部品の不具合発覚による工場の操業停止の影響が見られるほか、米中貿易摩擦など世界情勢の行方を懸念する声も聞こえ、先行きに不透明感が漂う。総じて、依然として人手不足が続く。
	その他の製造業		ゴム製品は、自動車メーカーの経営悪化の影響を受け受注が減少。木材は、荷動きに大きな落ち込みはみられないものの、依然として原木の高騰が続いており収益を圧迫している。紙加工品は、日の並びの影響により稼働日が減少し売上減少。印刷は、受注減少と原紙の値上げにより業況感に厳しさがみられる。
非製造業	卸売業		高崎卸団地・前橋卸団地は、売上・収益ともに前年並みに推移。太田卸団地は、慢性的な人手不足の中、一部に働き方改革に伴う残業規制の影響で受注を控える動きも見られる。農産物卸は、野菜の販売不振による相場の低下により業況悪化。水産物卸は、年末需要の反動減の影響で売上・収益ともに悪化。
	小売業		中古車オークションは、売上増加となるが、販売価格低下により収益変わらず。燃料小売は、若干の需要減少となるが、ほぼ前年並みの収益を確保。生花小売は、初旬に正月需要がみられたが、中旬以降動きが鈍化し前年並み。商店街は、業況に依然厳しさがみられるが、一部商店街で初売りによる売上増加がみられる。
	サービス業		温泉旅館は、天候の安定と正月休みの並びが良かったことから、多くの地域で入込客数の増加がみられる。邑楽・大泉地域における不動産取引は、消費税増税前の駆け込み需要が一段落したものの、大きな落ち込みはみられず。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移している状況。
	建設業		建設工事・塗装工事は、売上・収益ともに不変、年度末に向けた工事の発注増加に期待感。解体工事は、ガソリンスタンドのセルフ化による解体や空き地再利用のための工事が増え、好調を維持。電気工事は、前年並みに推移。鉄構は、工場稼働率は高水準で推移するも、依然として図面遅れ・工期遅れがみられる。
	運輸業		燃料ローリー関連において寒気の強まりを受けて暖房用燃料の輸送が増加したが、雨量不足による露地野菜の収穫量減少に伴い野菜関連輸送が減少。また、自動車関連の一部においてSUBARU工場の操業停止による輸送量の減少もみられる。小口配送は、毎年恒例のセンター試験の答案用紙の配送等があり前年並みに推移。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 104.4(前月比▲0.9%)「県統計課・12月」
- 住宅着工戸数 1,060戸(前年同月比▲16.9%)「県建築住宅課・12月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.17倍・有効1.73倍「群馬労働局・12月」
- 大型小売店販売額 256億円(前年同月比▲0.6%)「経済産業省・12月」
- 消費者物価指数(全国) 101.5(前年同月比+0.3%)「総務省統計局・12月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)